

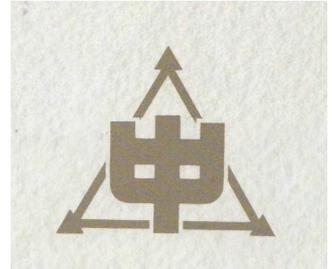


松柏中学校アーカイブ通信 第13号 2024年7月8日発行

きらめきタイム「アーカイブコース」責任者：山村 好克
(タイトルの背景は旧校舎)

意外な所にヒント、いや、正解が見付かった！！

写真をじっくり見て、周りに写っているものに注目したり、写真をパソコン上で拡大したりすることで、意外な発見があることは、今までも紹介してきました。今回は校章についての発見を報告します。過去の卒業アルバムや各種式典のパンフレット等にも校章の「いわれ」は見当たりませんでした。松の葉をイメージしているのは、おおよそ考えられますが、やはり確証がほしいところでした。



6月末、生徒会中心の安全活動によって、文部大臣表彰を受けたことを報じる新聞記事が見つかりました。昭和55年(1980年)2月11日付けの新聞記事ですが、紙名は書かれていませんでした。生徒会長でしょうか、3年生の清水康雅さんが、松柏中の紹介をしていました。紹介文の2段落目にこうありました。「校章は昭和25年4月8日、当時の矢野周校長がデザインし制定されたもので、松の新芽が四方八方に広がって巨松に成長することを期待、シンボル化されたものです。」(原文まま)



この一文を見付け、「学校沿革史」を調べました。アーカイブ活動のスタートとして、読み始めていた資料です。昭和22年からの手書きの記録ですが、昭和25年4月8日は「新任式並に入学式挙行」とあるのみです。この日以降にも校章についての記述はありませんでした。

「一人一研究発表会」とは？

今回新たに見付かった資料には、新聞記事の切り抜きだけでなく、年月日不明で画用紙に写真が貼られたものが数枚ありました。マジックで大きく「一人一研究発表会」とタイトルが付いていました。「学校沿革史」で確認する限り、昭和36年(1961年)8月から昭和52年(1977年)9月まで行われたことが確認できます。1学期、あるいは夏休みに取り組んだ自由研究でしょうか。各自のテーマまでは読み取れませんが、松柏中学校の伝統的な取組のようです。昭和52年度以降も続いていたのでしょうか。情報をお願いします。で、この画用紙に貼られた数枚の写真ですが、「講堂で」と説明が入っていました。そうです。昭和43年(1968年)5月に体育館が完成するまで、千丈小学校の講堂を借りていたのです。プールだけではなかったのです。気が付きませんでした。ちょっとした資料の端々から、大切なことを見付かったのです。(次号に続く。)

卒業生、地域の方々、関係者、松柏校区の方々に支えられて

松柏中学校の閉校に向けての取組の一環として、今年度もアーカイブ活動がスタートし、本格的に資料提供の呼び掛けを始めて3か月が経過しました。おかげさまで、たくさんの写真やエピソードが集まりました。私の身の回りですが、以下のようなことがありました。

松柏校区内で買い物や用事をしていると、「先生、地域の方が呼び掛け合って、昔の写真を集めよるよ。横のつながりがすごいなあ。同級生で連絡を取り合って…」(50代他)と話し掛けられました。



さらに「先生、歴代の卒業生集合写真は集まった?」「あっ、そう、全部そろった!すごいなあ、さすがに松柏地区よなあ。これからも協力するよ。」(70代)

そして、左の写真を御覧ください。八幡浜高校の第1校舎と第2校舎をつなぐ2階の渡り廊下の壁です。八高初の女性東大合格者を特集した「温故知新」第11号が掲示されていました。しかも、「先輩に学ぶ」とタイトルが付けられていました。7月4日に八高を訪ね、太古俊男教頭先生と話をしました。「このタイトルは、岩城進路指導課長が付けられました。3年生の教室がある2階に掲示したんですね。3年生の受験に向けてのモチベーションになればと思います。それにしてもこの松中卒業生、すごいですね。」